関西自然保護機構会誌 25 (2) : 121－122, 2003

「森林」は「モリやハヤシ」ではない（山科からの手紙７）

京都大学名誉教授　四手井　綱　英

A Japanese vocabulary, Shin-Rin, means deep (Shin) forest (Rin) in its etymology. Tsunahide Shidei (*Emeritus Professor of Kyoto University*)

森林をモリやハヤシと読んだのは日本人だけだ。日本人は，古い時代に森をモリだと思い込んでしまった。しかし中国語では「森」は「深」と同じ意味のシン（深い）と言う形容詞だった。森林はモリやハヤシではなく，「深い林」だったのだ。名詞の「もり」と言う形容詞だった森林はモリやハヤシではなく，「深い森」だったのだ。

森に名詞の「もり」という意味はない。だから，中国で「森林」をモリやハヤシだと言っても通用しないだろう。モリが名詞でないから，中国や朝鮮半島に「森」と言う姓の人はいない。名が森という人はいる。名のほうは形容詞でよいからだ。だから，「林　森」と言う人はいる。動植物の命名法も同様だ。

以上，「森林」は「深い林」であって「森や林」ではないことがお分りになったと思う。

次は「森」についてであるが，最近では森を林同様にあつかい，「林へ行こう」と言う所を「森へ行こう」と書く人が非常に多い。しかし，日本の「森」と言う字は，林を言い表はしている語ではない。山の分類の一つだ。山には色々な姿がある。山頂部が岩山になっている時は「岳」と言う。普通のなだらかな山頂を持っている場合は「山」と言うのが一般だが，山頂までぎっしり森林におおわれた山は「森」と呼ぶのだ。

どうしてか分からないが，高知県と山形県の周辺の山に「森」が多いようだ。例えば高知には「五位ガ森」「三日森」「雨ガ森」「遠森」「黒森」「瓶ガ森」など沢山ある。山形県でも「鷲石森」「森吉」等が地図に出ている。

ここらから後の話は私の想像だが，何故山頂まで森林におおわれた山を「森」として区別したか。考えて見ると，そう言う森林につつまれた山には神が住んでいた。住民が神の山を判別するために「森」と言う山を区別したのだ。そして，「森」と言われる山は神の住家として大切にしてあがめたのだ。そう言った山へは登らずに，平地から拝んだ。遠く「森」山を拝し，村から，はるかに祈ったのだ。「森」の高さは低いものから高いものまであるが，みなふもとの村々からよく見え，拝むのに好都合になっている。

「森」は神のおられる山のことなのだ。その一例が「宮の森」（神社林）だ。これも，林におおわれた宮の山のことで，林そのものではない。私達が手近に森と言うのは，「宮の森」だけだ。もう一つ付け加えておきたいのは宮の森が里山に多いことから，宮の森を里山だと誤解している人があることだ。たしかに宮の森は里山の一部であるが代表ではない。里山はアカマツとナラ，クヌギ林があって，たまたま宮の森があるだけだ。

以上のべたのは，要するに，「森林」はモリやハヤシではなく，「深い林」である。その意味を変え

てしまったのは日本人だけで，中国や朝鮮半島では通用しないことである。そして，「森」は日本では頂上まで森林でおおわれた山の呼び名で，恐らくは神の住む所であって，平野部の人々があおぎ見て収穫を祈り，平静な生活を願望したのであろうと思われる。